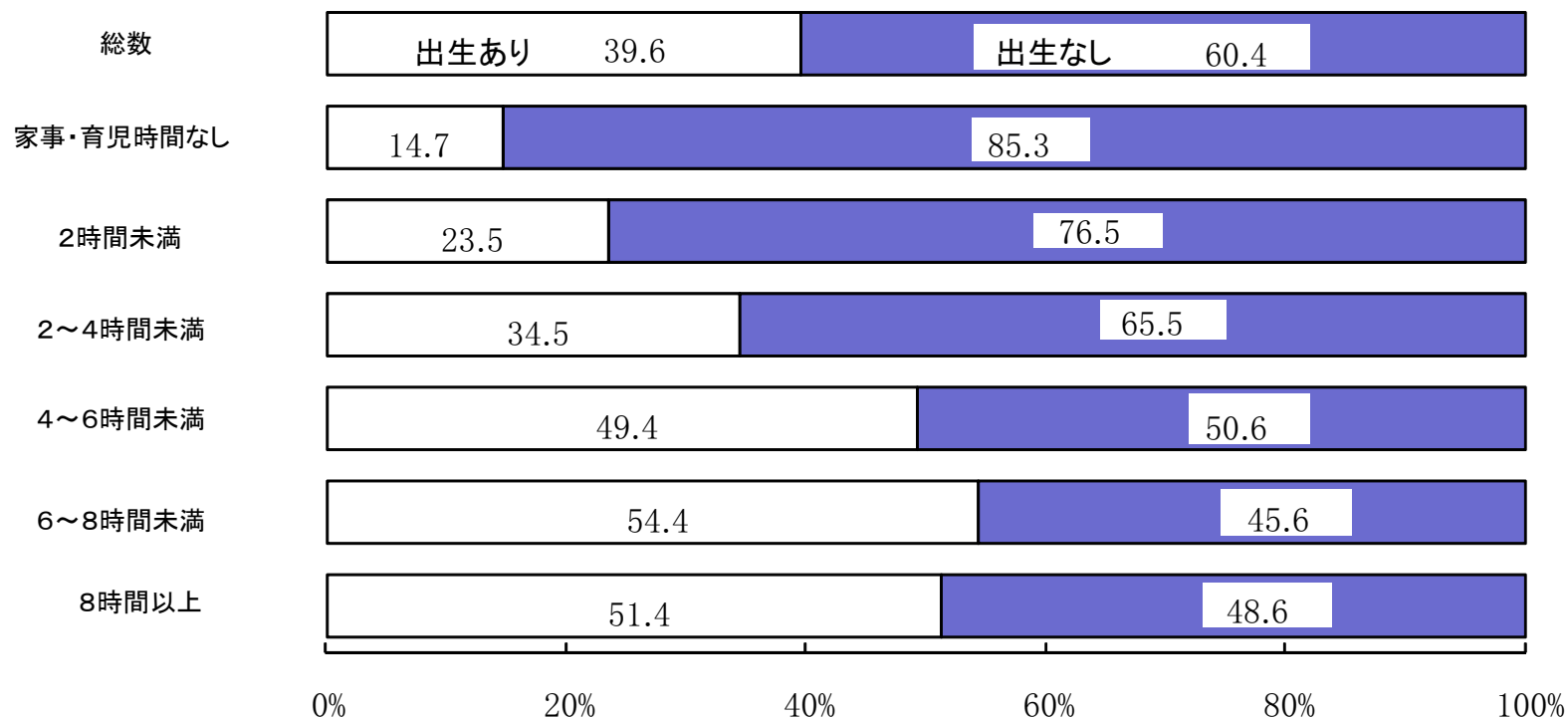


子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみたこの6年間の第2子以降の出生の状況

夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い。



注：1) 集計対象は、①または②に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

①第1回調査から第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

②第1回調査時に独身で第6回調査までの間に結婚し、結婚後第7回調査まで双方から回答を得られている夫婦

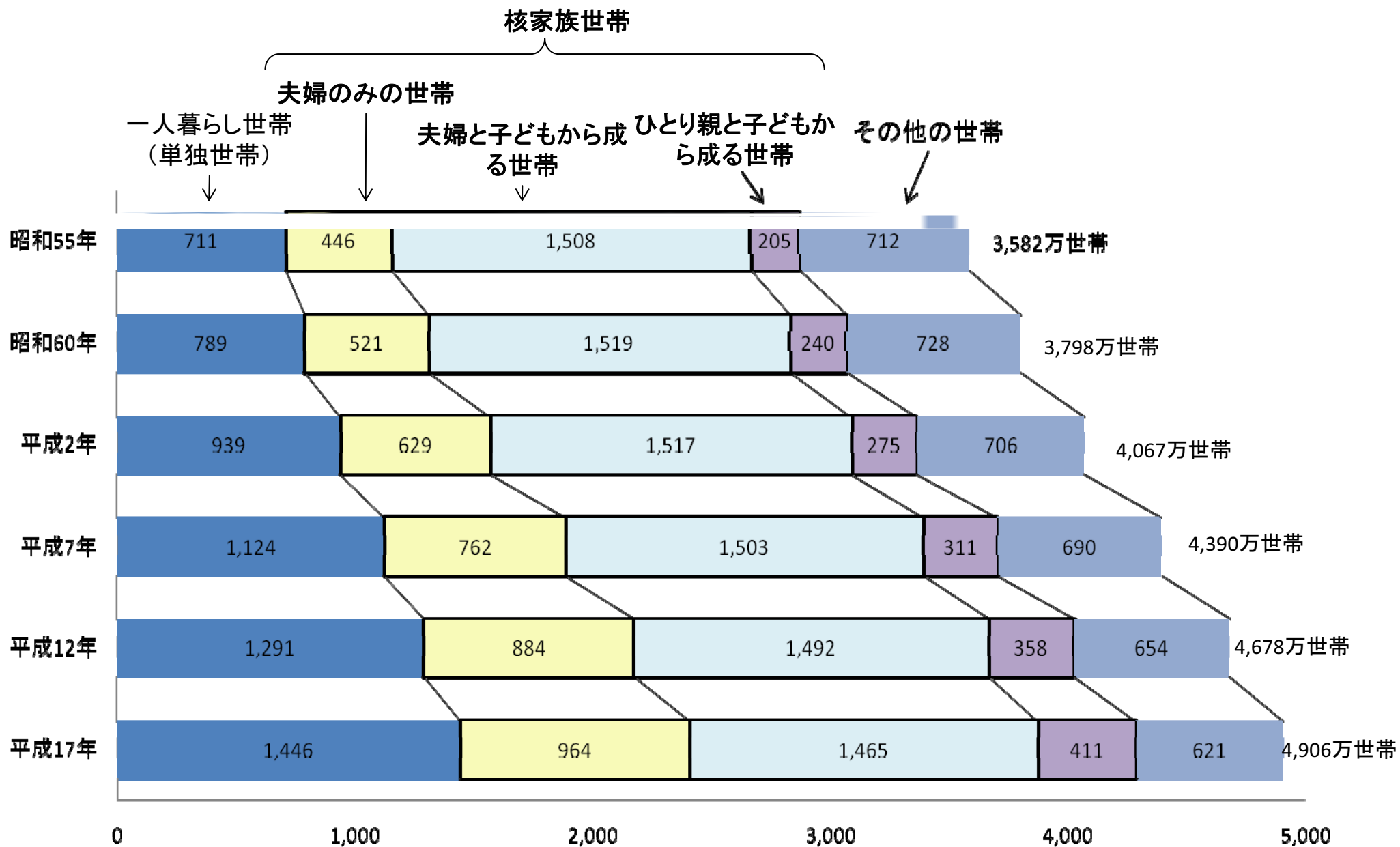
2) 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第6回調査時の状況である。

3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

4) 総数には、家事・育児時間不詳を含む。

出典：厚生労働省「第7回21世紀成年者縦断調査」(2009)

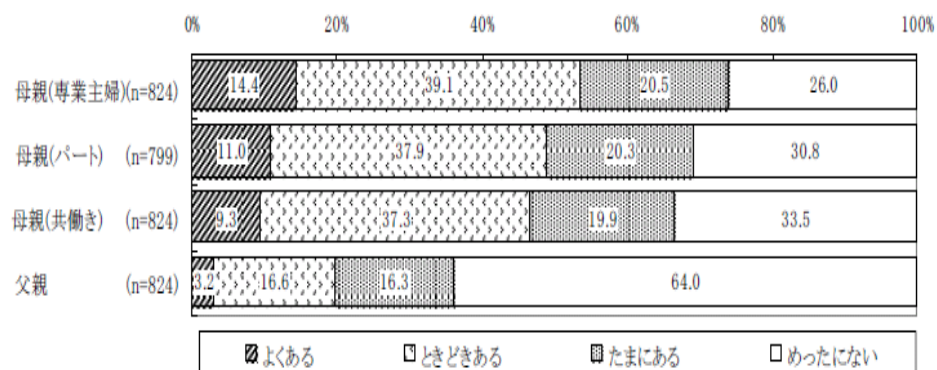
世帯類型別構成割合の推移



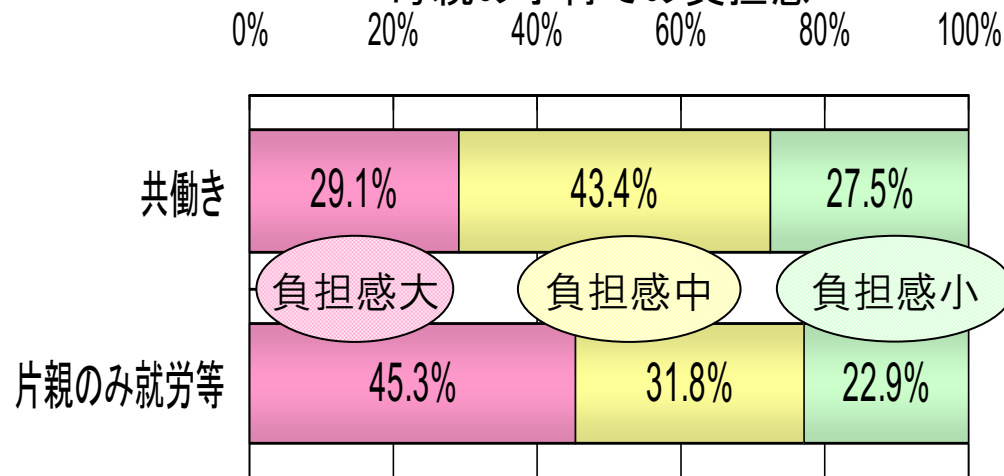
非就労家庭の子育ての孤立感・負担感と求められている支援の内容

- 核家族化が進み、地域のつながりも希薄化する中、子育てに孤立感・負担感を感じている母親は多く、とりわけ、専業主婦ほどその傾向が強い。
- 「育児から解放されて気分転換する時間」、「話せる相手」、「相談できる相手」等が上位を占めている。

母親の子育ての孤立感

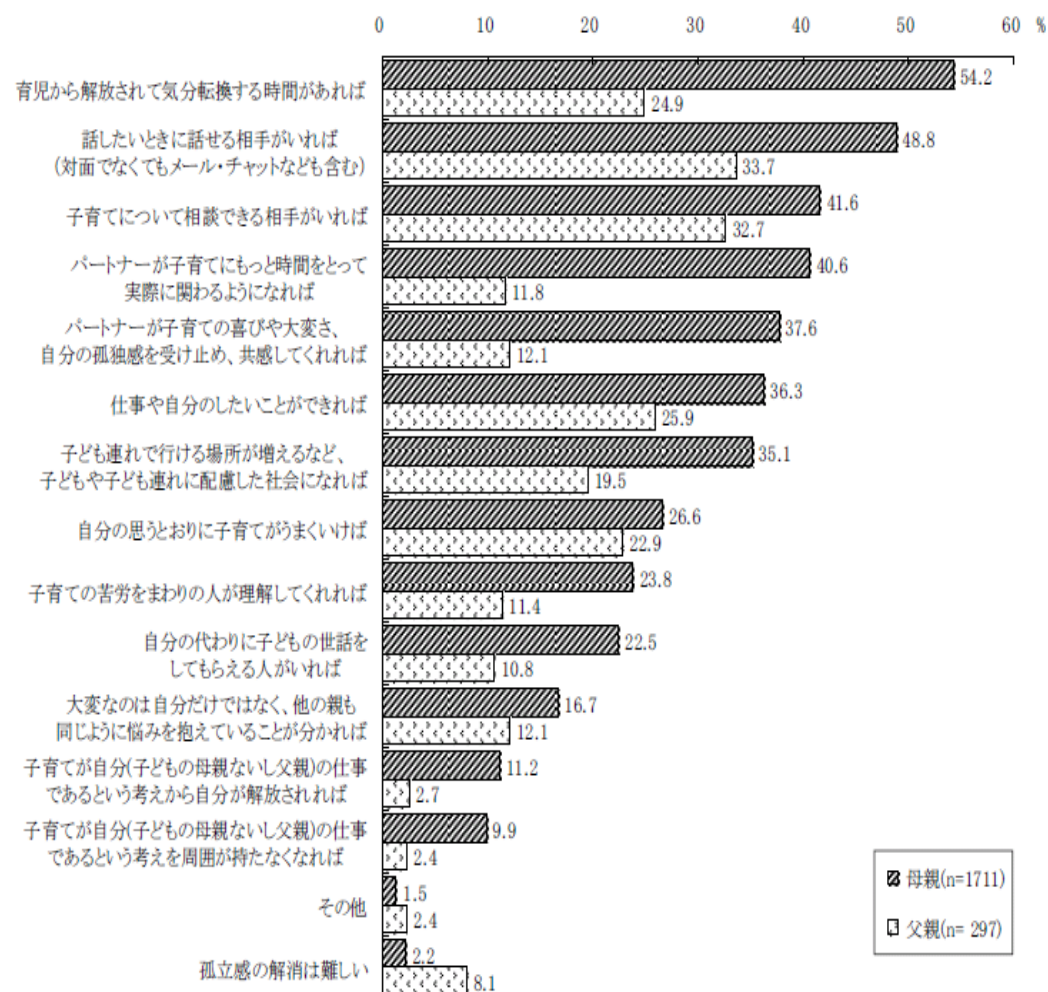


母親の子育ての負担感



(資料)(財)子ども未来財団「平成12年度子育てに関する意識調査事業調査報告書」(平成13年3月)

図表 242 孤立感を解消するには



就学前児童が育つ場所

- 3歳以上児のかなりの部分(4歳以上児はほとんど)が保育所又は幼稚園に入所
- 3歳未満児(0～2歳児)で保育所に入所している割合は約2割

